

新潟教育会報

第93号

公益財団法人新潟教育会
(新潟教育会館内)

代表理事 濱中 力也

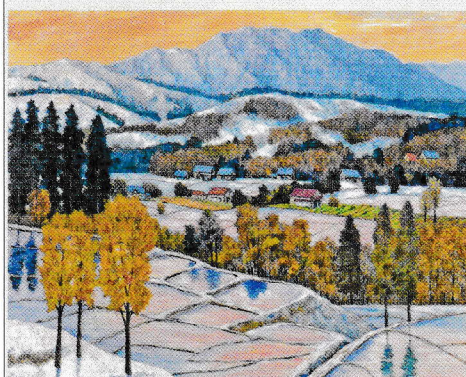
〒951-8104

新潟市中央区西大畑町590番地3

TEL/FAX 025-222-2971

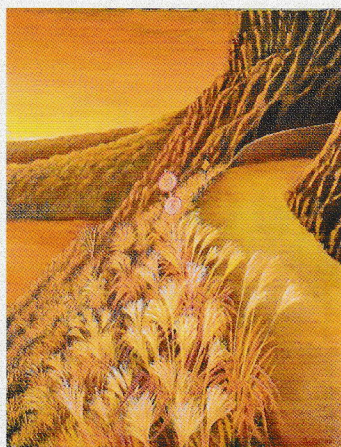
URL <http://kyouikukai.jp>E-mail 事務局 jimu@kyouikukai.jp研究所 kenkyujo@kyouikukai.jp

休館日 月曜日



棚田夕景 (洋画)

岡村文彦



晩秋・シーサイド (洋画) 鈴木 明

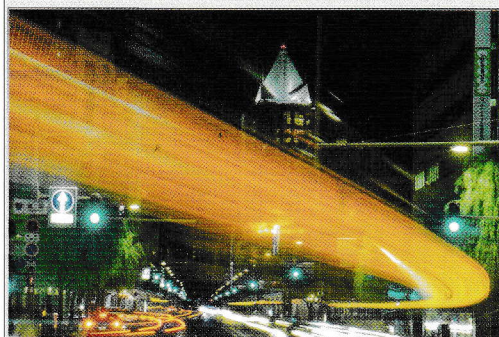
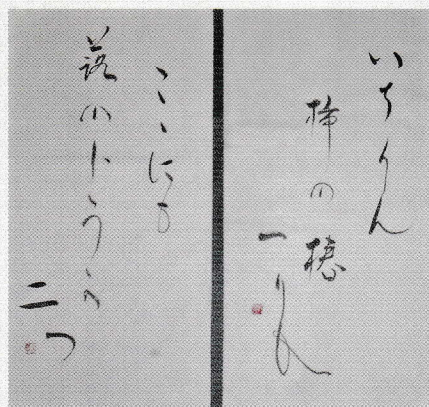
出漁準備 (日本画)

澁谷敏雄



三頭火の句 (書道)

中野洋吉



赤い曲線 (写真)

工藤信明

「第24回教美展」に 出品予定だった 作品介绍

当会は、「働き方改革」をテーマに第八回教育調査を行いましたが、その調査結果に分析と提言を加えた調査報告書を今月刊行いたします。この報告書を通じて、教職員の働き方の実態に関して県民の皆様の理解が進むとともに、具体的な改革をさらに進める一助になれば幸いに思います。また、調査では、教職の志望者が減少していることについて、現職の思いを記入していただきました。そこからは、多忙な中であっても、教職に喜びや誇り、生きがいを感じながら、懸命に子どもたちに寄り添っている教職員の姿が感じられました。

この数か月間、新型コロナウイルス感染症の影響で平穏な生活が一変しました。突然休校となり、子どもたちは様々なネガティブな影響を受け続けてきました。繰り返される感染拡大の報道、学校生活の空白、運動や遊びの制限、様々な活動の中止や変更、安心や安全が脅かされるだけでなく、夢や希望を抱くことすら制限されたかのように感じられる日々でした。

そんな時間を過ごした子どもたちが、ようやく学校や地域社会に戻ってきます。学校では、授業の遅れも気になるところかと思いますが、子どもたちの不安や不満、ネガティブな感情を出し合ってシェアする機会をつくってほしいと願っています。我慢しなくていい、弱音を吐いたり、誰かに「助けて」といったりできる一人一人の感情を大切にしてほしい。そしてこれまでと同様に、「自分は自分のままでいいんだ」「自分は愛されているんだ」と思える場面を用意してほしい。そうすることで、困っている仲間を自然と助けられるようになっていく。子どもたちはきっと、大人が膝を落として自分たちと目線を合わせて言葉を聴き取ってくれる瞬間を待っていてくれると思います。

みんなが不安の中にあるからこそ、自分の力を誰かのために発揮し、できないことは助けてもらって生きていける、そんな支え合いのある学校や地域社会になってほしいと考えています。



エール

代表理事

濱中 力也

令和元年度特別支援教育

助成校だより

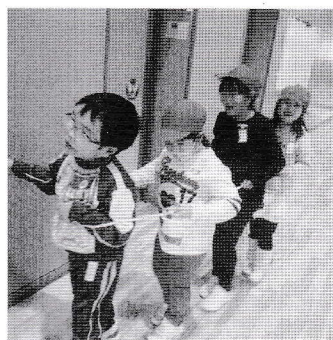
日常的な交流をめざして

糸魚川市立糸魚川小学校

朝井 宜人

当校の校舎は、糸魚川市立ひすいの里総合学校と連結した造りとなっています。その背景には、障がいのあるなしにかかわらず、両校の子どもが、日常的なかわりの中で学びを深めてほしいという願いが込められていると考えます。

これまで両校は、運動会や文化祭などの行事を合同開催したり、ハロウィン祭りのような学年が企画する活動に招待し合ったりと、イベント的な活動を一緒に楽しむことで交流を深めてきました。そのような中で「校舎の特長を考えたとき、より日常的な交流をめざせるのではないか」と職員から声が上がったのです。早速、交流担当を中心に、その実現に向けて動き始めました。どのような取組



昼休みの交流の様子

ができるか提案し合い、両校が打合せを重ねることで、徐々にめざす姿も共有されました。そして次のような取組が始まったのです。

○職員交流を深める（授業を見合う）

○作品交流コーナーを設置する

○子どもの昼休み交流を始める

しかし、昼休みの交流は、想定以上の子どもが連日訪れ、特別支援学校の子どもを戸惑わせてしまう事態となりました。一時交流停止とし、両校で改善策を考えました。その後交流が再開し、現在も続いています。このように、今後も出てくるであろう問題を一つ一つ解決しながら、両校の交流をさらに深めていきます。

子どもたちの自己有用感を育む
生活単元学習を仕組む

十日町市立十日町小学校

桑原 由加

当校は、特別支援学校ふれあいの丘分校、発達支援センターおひさまと併設しています。「共生の理念」のもと、それぞれの活動を尊重しつつ、交流活動も活発に行っています。

当校の特別支援学級には、情緒面の課題がある子どもが多く在籍しています。

そこで、生活単元学習では、他者とのかわりを学ぶこと、自己決定をする活動にすること、自分の成長を自覚できる振り返りの場を設けることを意識して、活動を仕組んでいます。

今年度は、湯沢方面に出かけました。電車やロープウェーに乗って目的地に行



上学年と下学年のペアで、助け合いながら電車の切符を買っている様子

き、昼食や家族へのお土産を買う活動です。上学年と下学年でペアを組み、いろいろな人とかかわりながら、自分達で考えて決め、できるだけ自分達の力で活動しました。活動後のふり振り返り作文には、このような記述がありました。

「校外学習では、ペアの下学年の友達と仲を深め合うことができました。六年生としてリーダーシップを発揮できたと思います。電車やロープウェーではみんなのマナーがよくて、今まで学習してきたことができて、よかったです。」

在籍する子どもたちはみな、特別支援学級の学習で学んだことを交流学級で生かし、自分の良さを発揮しながら活動できるようになってきており、手ごたえを感じています。

交流及び共同学習の充実を
目指して

阿賀野市立水原小学校

阿達 ゆみ子

当校の特別支援学級は、知的・情緒障がい各二学級と、肢体不自由一学級の計

五学級、在籍児童は二十六名です。通常学級児童との交流を深め、お互いが協力し合って生活できるよう、交流及び共同学習に力を入れています。その中から二つの活動を紹介いたします。

一つ目は、特別支援学級担任による通常学級での出前授業です。ユニバーサルデザインに触れながら「一人一人個性や特性や良さがあること」「場所や方法が違っても一生懸命に学習することが大切であること」「分らないことがあればいつでも支援を受けられること」等の理解を目的にした授業です。職員も、真剣に話を聞く児童の前に、児童の心のバリアをできるだけなくしていこうと決意を新たにする時間となっています。

二つ目は、児童間の交流です。特別支援学級児童の手作りカレンダーを、全学級、校長室、更には市役所、中学校等へ直接配付しています。二ヶ月かけて作成してきたカレンダーは毎年好評です。四月には、各教室で「どうぞ、使ってください。」「待ってたよ。ありがとう。」「言葉とともに、児童間の交流が図られています。」



校長先生どうぞ！

今後も、交流及び共同活動を大切にしながら、個に応じた指導の充実に努めていきたいと思っています。

全校体制で取り組む 特別支援教育

新潟市立大鷲小学校

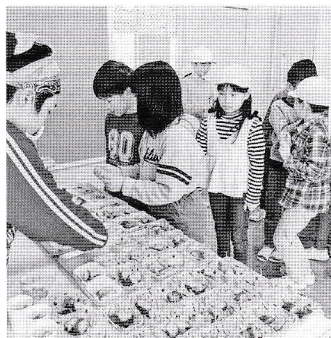
上村 奈々緒

当校は、全校児童八十七名で、知的障がい学級が一学級、自閉・情緒障がい学級が一学級あり、各三名ずつ六名の児童が在籍しています。

様々な教育的ニーズがある中、「どの子どもにも学びやすい環境の整備及び必要な合理的配慮の提供」を目指し、次のような取組をしています。

一つ目は、ユニバーサルデザインの視点に基づいた環境整備と授業作りです。机の上のノートや教科書の置き方、ノートの書き方など、自分も友だちも気持ちよく学習できるための約束事を決め、全校で統一し、「大鷲小スタンダード」として取り組んでいます。

二つ目は、個別の教育支援計画や個別の指導計画に基づいた合理的配慮の提供です。どんな支援が必要なのかを明らかにし、職員間で共有しています。職員が児童全員の顔と名前を知っているという小規模校の利点を生かし、必要な支援をいつでもだれでも行えるよう、全職員で取り組んでいます。



おもちゃさんをひらこうの様子

これからも、一人一人の困り感に寄り添い、それぞれの個性や能力を伸ばしていけるよう、全校体制で取り組んでいきたいと思っています。

『職業学習』を通して 味わう達成感

小千谷市立小千谷中学校

佐野 奈穂美

当校には知的障害学級一学級と自閉症・情緒障害学級三学級の計四学級あり、十八名の生徒が在籍しています。また、発達障害通級指導教室があり、十八名の市内生徒が通っています。

当校は特別支援学級担任とアシスタントの計八名から成る「特別支援教育部」が各学年部から独立しています。毎朝の打合せで生徒の情報を共有し、共通理解を図った上で指導・支援を行っています。一人一人のニーズに応じた支援を行うために、支援学級と交流学級のどちらで学習するかを相談し、より生徒が学習しやすい環境にするために、時間割を調整しています。高等学校への進学を希望する生徒も多数います。基礎基本を中心とした、それぞれの生徒に応じた学習指導を各教科担当が行っています。

職業学習の授業では十年以上前からカラフルな糸の手織物「さをり織り」に取



集中して作業に取り組む生徒たち

り組んでいます。織り上がった布は、アシスタントがペンケースや小物入れに加工します。また、校地内に落ちた銀杏の実を拾い、漬し・洗い・乾燥の工程を経て袋詰めします。この「さをり織り」製品と「銀杏」を商品として、校内・校外で販売します。この活動によって、生徒たちは働くことに関心をもち、職業に就くには道具や材料の扱い方等の知識と技能が必要であることを理解します。商品を売った収益で、レストランで食事をする「お楽しみ会」を行いました。

将来の自立を目指して

新潟市立木戸中学校

佐久間 みつ子

当校には、知的障がい学級と自閉症・情緒障がい学級が一学級ずつあり、合わせて十四名の生徒が在籍しています。

授業は二学級合同で時間割を組み、教科担任二名と支援員二・三名によるチームティーチングを行っています。教科学習は特に個人差が大きいので、国語・数

学・英語・社会において二・四グループに分けて、それぞれの学力や進路に対応した学習を行っています。

「生活」という自立活動を指導する時間には、体操、作文や絵手紙、ゲーム等を通して個々の運動機能やコミュニケーション力の向上を図っています。

「生活単元学習」ではお楽しみ会や校外学習、カレー屋等の活動を年間計画の中に設定し、生徒の話し合いを生かして企画・運営を行っています。

しおりや切り絵カレンダー制作の伝統がある「作業学習」では、指示通りに作業することや集中力の向上を図っています。先輩・卒業生の作品や態度に学びつつ、リーダー生徒を育成する機会となっています。

「総合学習」では卒業後の進路や就労について体験を通して学ぶ機会を設定しています。今年度も二校の特別支援学校見学と二日間の職場体験を行いました。

今後も本人・保護者と話し合い、専門機関との連携を図りながら、適切な支援を行えるように、全校体制で取り組んでいきます。



わかたけ大空カレー

令和二年度事業計画

適時性の高い教育問題や課題について、研修する機会や諸情報を提供し、次代を担う子どもへの育成を担当する教職員(等)の資質・指導力の向上を図る。そのことを通して、本県教育の振興に貢献するため、以下の事業を実施する。

1 研修講座

(1) 夏季大学講座
教師や社会人としての資質を高める機会とするために、教育に関する原理的研究や教育課題解決の方策及び社会問題等について学ぶ講座を実施する。

・期日 8月1日(土)
・会場 新潟市 朱鷺メッセ
・講師 きき酒マイスター・尾畑酒造専務取締役 尾畑 留美子

(2) 第46回 教育相談研修会

子どもの問題行動を解決し、解消するための信頼関係の確立や子ども理解の力量を高めるために1泊2日の研修講座(教職員)と保護者の講座を実施する。

教職員研修講座(1泊2日)
・期日 8月6日(木)～7日(金)
・会場 「じよいあす新潟会館」

保護者のためのカウンセリング講座
要請に基づき教育カウンセラーを講師として派遣する。

(3) 要請者が希望する日時・会場で実施

教師力アップ講座
具体的な指導方法を学ぶための講座を実施する。

・期日 7月26日(日)
・会場 「新潟教育会館」
・講師 村上 大樹

新潟市立味方小学校教頭 古田島 恵津子

2 教育アドバイザーの派遣

教職員や保護者の要請に応じて、その悩みを解決したり、指導の支援を提供したりする。112人の登録アドバイザーを要

請者のもとへ派遣する。
退職教員の「アドバイザー募集」を継続し、事業の充実を図る。

3 第24回 教美展(新潟教育会美術展)

教職員(退職教員を含む)等に美術作品の発表と鑑賞・技能向上の機会と場を提供する。又多くの鑑賞者に生涯学習や豊かな心の教育についての理解を深める美術展覧会を実施する。

・実行委員会(2回)、小委員会(2回)
・会期 6月9日(火)～6月15日(月)
・鑑賞、解説会 6月14日(日)
13:00～14:30

・会場 新潟県民会館「ギャラリーA」
4 教育資料室の運営
教育資料を収集し、資料室に整理・保管するとともに蔵書データベースの作成を継続して、利用者の活用に供する。

・「資料選定委員会」で協議し、資料の充実を図る。

5 特別支援教育の助成

特別支援学級又は教室を有する県内小・中学校及び特別支援学校6校に対して、各5万円を助成する。

・特別支援教育助成選考委員会
助成金の交付(授与式) 9月 11月
6 第9回教育調査の計画
様々な教育課題について、教職員や保護者の意識や実態を調査し、報告書の発刊を通して、現状と改善の方法を提言する。

7 『教育研究論文第25集』の発刊
県内の小・中学校及び特別支援学校教職員の優れた実践や研究成果を広く紹介し、読者である教職員の研究意欲と資質・指導力の向上を目的として「教育研究論文集」を3月発刊する。

8 教育会館の活用

教育研究団体や要請のあった団体に新潟教育会館の会議室、研修室、相談室等の利用を認め、施設の有効活用を図る。

9 教育情報の発信

新潟教育会の事業等を広く広報すると共に、各種教育諸情報をホームページや広報紙で発信する。
「ホームページ」「教育会報」「教育研究所所報」「要覧」等

事業計画の変更について

新型コロナウイルスの感染の広がりを受け、感染拡大防止および参加者の健康面・安全面を最優先に考慮し、本年度上記のように計画しておりました事業を、次のように変更させていただきます。

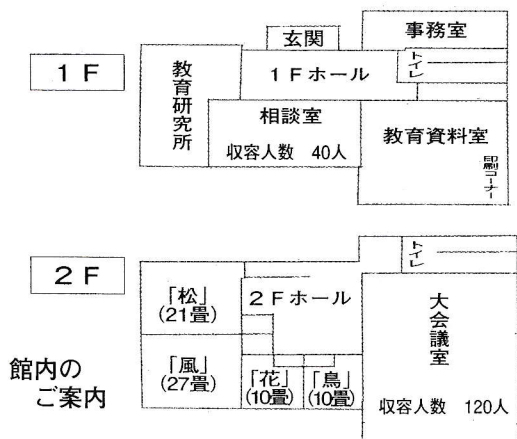
○夏季大学講座Ⅱ中止
※来年度は長岡で開催します。

○第46回教育相談研修会Ⅱ中止

○第24回新潟教育会美術展Ⅱ中止
※出品するために準備された作品を、会報やホームページ上で紹介します。(希望者のみ)

○教師力アップ講座Ⅱ延期の方向
※今後の情勢で、中止となる場合があります。

なお、右記以外の事業は、当初の計画に沿って進めて行く予定です。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



役員名簿

代表理事	濱中 力也	評議員	堀 隆行
理事	森 正司	山際 貴子	
	高橋 恒彦	橋本 定男	
	荒木 正	高橋 正則	
	米山 睦子	吉田 隆	
	脇野 哲郎	山岸 修	
		斎川 英子	
		小野 真	
監事	桑原 幸男	逢坂健太郎	
	佐藤 昇誠	近藤 幸英	
評議員	池野 正晴	山田 浩之	
	森 弘志	山田 耕世	
	岸本 卓也	山本 達也	
	荒木 一成	館岡 信也	

あとがき

▼新しい年度の始まりは、まさかが続きます。早くこのウイルス禍を乗り越えられますよう願うばかりです。
▼本号は、令和元年度特別支援教育助成校の紹介、新型コロナウイルスの感染で変更せざるを得ない事業もありますが、本年度の事業計画を中心に編集しました。
▼巻頭写真には、教美展に出品予定だった作品(一部)を掲載しました。以降、随時、ホームページ等で紹介いたします。
▼新潟教育会と皆さまとを結ぶ「架け橋」として、本年度も3回発行いたします。